時間をつくる／自信をつける

～一級建築士～

1. はじめに

私は学生時代、建築を志した頃から「建築に携わるなら、いつかは一級建築士を取得したい」という想いを持っていました。ただ、私が受験した年は、大学を卒業後、仕事をして実務経験２年を経てから試験を受けなければならず、仕事と勉強の両立という点で不安を抱えていました。

仕事と勉強の両立を図るため、私は「効果的に勉強に取り組む時間をつくること」「『自分は絶対にできる』と自信をつけること」の２点を特に意識して勉強に取り組みました。この意識付けを中心に、私の体験をお伝えしたいと思います。

2. 学科試験

私が受験した一級建築士の学科試験は、計画・環境・法規・構造・施工の５分野で構成され、すべての分野である程度の点数を取らなければなりません。

私は、全分野を習得するには多くの時間がかかると考え、仕事の少ないうちに学科試験の勉強を始めることとし、就職した年から資格学校に通いました。

資格学校での学習は、講義と宿題を繰り返すのが基本です。ただ、それだけでは周りの受験生と差がつかないので、自分なりの工夫が重要だと思います。

講義については、ただ講義を聴くだけでなく、分からないことや疑問に思ったことをまとめて、講師に質問して解決していくことを重視しました。

宿題については、全てこなすことは当然として、その上で理解が不十分だった箇所について、自分で調べたり、人に聞いたりして、原理原則から理解することを心がけました。原理原則から理解すれば、仮にある事柄を忘れてしまっても、考えて答えを絞り出すことができるようになります。これらの工夫により、私は効果的に知識を身につけることができる時間をつくっていきました。

また学校では模試などの成績が壁に張り出されます。ここで常に上位の成績をとることを目指し、他の受験生に負けない自信をつけていきました。

これらの学習により、学科試験はかなりよい成績で突破することができました。

3. 製図試験

私が受験した一級建築士の製図試験では、６時間

半という、通常はありえない時間で設計及び製図をこなします。かつ、問題用紙に書かれない事項も含む多様な設計条件をすべて満足させる必要があります。このような性質から、短時間での設計及び製図の回数を重ねて、慣れることが重要だと思います。ただ、製図試験は学科試験が終わってから３ヶ月弱で準備をすることになるため、時間がありません。

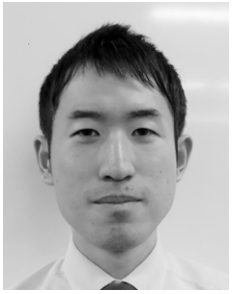
私は引き続き資格学校に通い、設計製図の勉強をしました。最初の方は、設計が定まらず、製図も時間がかかり、自分ではできたと思った図面に講師からたくさん指摘をもらい、学科試験のときの自信がなくなってしまいました。しかも、学科の勉強をしていた時よりも忙しい部署に異動になり、休みを取って勉強の時間をつくることは困難でした。

そのような状況下で私は、平日に、昼休みに今まで解いた問題と模範解答を分析して、設計条件に応じた基本の設計のパターンを覚えたり、帰りの電車で方眼ノートを広げて設計し、家で図面を描いたりして、空き時間を徹底活用して学習に取り組みました。それらの学習を踏まえて、土日に６時間半通しで試験のシミュレーションに取り組みました。

これらの工夫によって時間をつくり、対策に取り組んだ結果、いつも指摘をもらっていた講師からは最終的に「何も言うことがないよ」と言われるに至り、自信をつけることができました。当日も自信を持って試験に挑むことができ、合格という最高の結果を得ることができました。

4. おわりに

私は、特に製図試験の直前は業務多忙で、試験前日の明け方まで職場に残っていました。それでも、



国土交通省 大臣官房 官庁営繕部 計画課
計画調整係長
高橋（たかはし）　典晃（のりあき）

（取得した資格：一級建築士
資格取得年度：平成30年度）

これまでたくさんの時間をつくって勉強を進め、それにより自信をつけることができたので、動じずに試験に挑むことができました。

時間をつくることに関して、ここまでは勉強のための時間について書いてきましたが、私は息抜きの時間をつくることも大事だと思います。学科の勉強をしていたときは、たまに講義を振り替えて旅行に行き、製図の勉強をしていたときは、１日がかりの勉強が終わった後、近場でおいしいものを食べたり、銭湯でリフレッシュしたり、適度に息抜きすることを心がけていました。体調及びメンタルを万全に保ち、継続的に試験勉強に取り組むためには、たまに息抜きをすることも重要だと強く思います。また、必要な睡眠時間をつくることももちろん大事です。

最後に、結局は試験ですので、努力を続ければ、必ず結果が現れると思います。制度も変わり、今後は実務経験なしでも試験は受けられるので、ぜひ挑戦してみてください。